

- 1 2007（平成 19）年実施の「奉仕」を発展的に統合し、人間の在り方に関する「人間と社会」を 2016（平成 28）年度より必修科目とする
- 2 授業時間数 1 単位
- 3 状業の構成 「演習」16 単位 「体験活動」19 単位
- 4 評 価 数値評価ではなく文章記述による
- 5 内容

1 人間関係を築く	2 学ぶことの意義	3 働くことの意義	4 役割と責任を考える	5 マ-と社会のルール
6 ネット時代	7 選択し、行動する	8 チ-ムで行動する意義	9 人生とワークライフバランス	10 お金の意義
11 支えあう社会	12 地域社会を築く	13 自然と人間の関わり	14 科学技術の先に・・・生命倫理を考える	
15 文化の多様性	16 グローバル化が進展する社会に生きる	17 対立から国際平和を考える	18 主権者としての自覚	



●上記の中から「労働教育」としてとらえるとしたら

- 2 & 3 学ぶことと働くことの意義の理解、社会的自立や職業的自立の涵養（かんよう）
9 雇用の安定化と労働条件の改善点や仕事と生活の調和の視点から今後の日本の雇用について探究
11 人間として生活が保障される社会保障制度の仕組みの意義や役割の理解、現状と課題の考察
その他 12、15、16、18 も考えられるか・・・

●ケーススタディ

- 1 卒業生が職場で経験した出来事 2 定時制高校卒業後、大学進学した高齢者の生き方 3 転勤することになって考えたこと
7 会社員がNPO法人へ転職した事例 9 育児休業の取得、残業のあり方

6 教科書の供給

学校教育法附則第9条に規定する図書として生徒が購入、価格は151円（税抜）



*定時制及び通信制課程では「教科書補助金」の対象になる

★現場としては「いかに労働教育を教えるか」という視点にたった上での教科書利用が可能かを考えてみる。

定時制課程の現状(7校)		本校	工業系	普通科	普通科
1 週当たりの時間	年間35時間 1単位	1(金曜日4限目)	木曜2限目	金曜4限目	水曜日3限目
2 履修する学年	(1 2 3 4)学年	1年	4年		3年
3 授業構成	演習 16時間 「労働教育」に関することは？	担任によるまたは 学年単位で授業実施 (労働教育は特になし)	担任団および担当教員による 講義、演習(クラス単位と学年 単位の併用)。進路活動につ いては必ず実施。		「総合」にかえて授業実施。 (労働教育は特になし)
	体験学習 19時間 「労働教育」に関することは？	数時間の地域清掃	講師を招いて講演・体験学 習(4時間+事前事後指導 で+α)		数時間の地域清掃
4 評価	文章記述	〇〇分野を履修・修得	成果によって3段階		文章記述
5 その他	授業以外(自立支援やグループエン カOUNTER・都によるキャリア教育は 除く)に独自にやっていることがあれ ば記入下さい。	①生徒全員対象の 「アルバイト(就労調査)」 ②1&2生対象「労働 教育」弁護士による (両者とも年1回)	学年団の意向により、毎年 変化する。	現代社会の授業で労働教 育に触れる	12月に進路講話として労働 教育を実施している。演題は 労働上のトラブルとその解 決法について。

			昼夜間	昼夜間	産業科
1 週当たりの時間	年間35時間 1単位	1(金曜日4限目)	I部3・4 II部7・8 III部9・10		不定期 定期考査中および長期 休業中間
2 履修する学年	(1 2 3 4)学年	1	2年	2年	3年
3 授業構成	演習 16時間 「労働教育」に関することは？	担任によるまたは 学年単位で授業実施 (労働教育は特になし)	部単位で授業 (労働教育は特になし)	テキストによる学習(理科教 員が担当)労働教育はなし	担任による
	体験学習 19時間 「労働教育」に関することは？	数時間の地域清掃	部単位で・高齢者介護施設 訪問・保育園訪問・防災見 学	車いすの修理(工業教員が 担当)労働教育はなし	数時間 児童館等で実習形 式
4 評価	文章記述	〇〇分野を履修・修得	文章記述		コメント記入のみ
5 その他	授業以外(自立支援やグループエン カOUNTER・都によるキャリア教育は 除く)に独自にやっていることがあれ ば記入下さい。	①生徒全員対象の 「アルバイト(就労調査)」 ②1&2生対象「労働 教育」弁護士による (両者とも年1回)		産業社会と人間(1年次の登録 科目)の中で労働教育を扱う。 2時間で毎年1月頃実施。ロー ルプレイなどで労働基準法等 にある休憩時間や残業手当を 学んでいる。	

教科の目標 : 価値の理解を深める学習、選択・行動に関する能力を育成する学習、体験活動などを通して、道徳性を養い、判断基準（価値観）を高めることで、社会的現実を照らし、よりよい生き方を主体的に選択し行動する力を育成する。

1 「人間と社会」の設置

- 新教科の設置
平成19年度から実施の教科「奉仕」を発展的に統合し、人間としての在り方生き方に関する新教科「人間と社会」を平成28年度から必修教科として設置

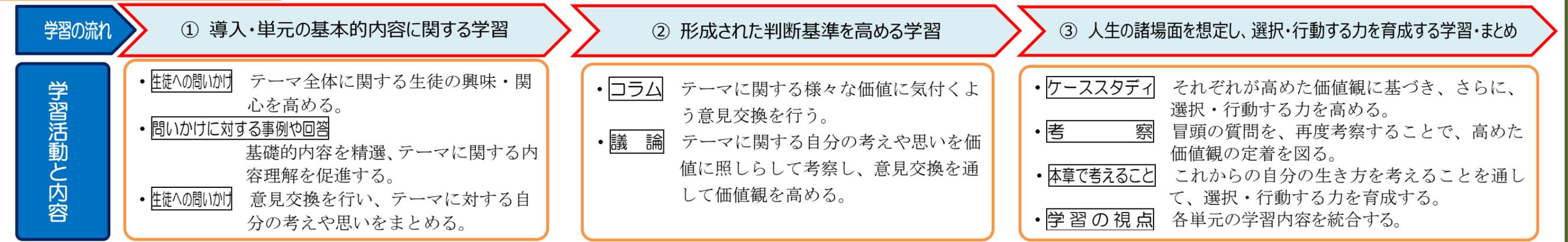
2 学習活動について

- 授業時間数
週当たり1単位時間の実施
年間35単位時間（1単位）以上
- 授業の構成
 - ・「演習」による学習 16単位時間
使用教科書の4テーマ以上
アクティブ・ラーニング形式を活用
 - ・「体験活動」による学習 19単位時間
- 評価
数値評価ではなく文章記述による評価

3 使用教科書について

- (1) 使用教科書の作成
 - 執筆 研究開発委員会教育課題高等学校教育部会（H27年度10回開催、校長を含む都立高校教員全10名）
 - 検討 有識者会議（H25～H27年度延べ8回開催）
有識者 筑波大学人間系教育学域 藤田 晃之教授
国立教育政策研究所教育課程研究センター 西野真由美総括研究官、赤堀 博行教育課程調査官
日本商工会議所・東京商工会議所 大井川智明企画調査部副部長
警視庁生活安全部少年育成課 岡部 享市少年相談係長
東京都公立高等学校PTA連合会 三木 健司元副会長
- (2) 使用教科書の特徴
 - 1章あたり4ページで構成、全18章（各章のテーマは[6]を参照）
テーマ これからの社会を生きていく上で解決すべき課題
配列 身近なテーマからより広く大きなテーマに配列
 - 各章の構成は、各学習活動を系統的に配列（[4]を参照）
 - ①導入・単元の基本的内容に関する学習（「テキスト」を読み、「質問」で自分の考えをまとめる。）
 - ②形成された判断基準を高める学習（「コラム」を読み、「質問」で他者と話し合い自分の考えを深める。）
 - ③人生の諸場面を想定し、選択・行動する力を育成する学習・まとめ（「ケーススタディ」や「質問」で実際に想定して選択・行動する。）
- (3) 使用教科書の供給
 - 学校教育法附則第9条に規定する図書として生徒が購入、価格は151円（税抜）を予定

4 使用教科書の各章の構成



5 これまでの取組と今後の予定

	H19年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	
都独自教科の設置	教科「奉仕」の設置	道徳教育の充実、キャリア教育の充実の検討			道徳教育とキャリア教育の一体化の検討	「人間と社会」の試行実施	教科「人間と社会」の設置、全校実施	
教科書				試行版テキスト(8章)作成	教科書(18章)作成			
効果検証						研修会、成果発表会 生徒の意識調査[前・後]	研修会、成果発表会 生徒の意識調査[前・後]	

6 使用教科書の内容

① 導入・単元の基本的内容に関する学習

② 形成された判断基準を高める学習

③ 人生の諸場面を想定し、選択・行動する力を育成する学習・まとめ

テーマ	質問	コラム	議論する内容	ケーススタディ	人生の諸場面に即した考察	
序章	学習の視点を考える	生きていく上で大切にしたいことのワークや考察を通して、この教科を学習する目的を理解する。				
1	人間関係を築く	自己理解、他者理解、コミュニケーションの取り方	卒業生が職場で経験した出来事	よりよい人間関係を築くため 上で大切なこと	文化祭実行委員としての役割	人間関係で大切なこと
2	学ぶことの意義	アンケート結果や高校生活の体験談から分かる、学ぶことの大切さ	定時制卒業後、大学進学した 高齢者の生き方	学ぶことの意義	子供の勉強の取組への親の アドバイス	学びで大切なこと
3	働くことの意義	働く上での収入、人間的成長、厳しさを踏まえた働くことの意義	兄の働く姿を見て	働くことの意義	転勤することになって考えたこと	働く上で大切なこと
4	役割と責任を考える	高校生、社会人、企業それぞれの役割と責任	公式戦で補欠メンバーとしての取組	役割と責任に対する考え	放課後の教室掃除当番で考えたこと	役割を担い責任を果たす上で大切なこと
5	マナーと社会のルールについて考える	都立高校生の現状から分かる、マナーやルールの必要性	地下鉄のマナーポスターの表現の変化	マナーやルールの意義	コピー&ペーストで作成した読書感想文	マナーやルールを守ることの大切さ
6	ネット時代	スマートフォンへの依存度やインターネット上のトラブル	ネット時代に必要なコミュニケーション能力	ネット時代に生きるために必要なこと	無料通話アプリの使用に関すること	ネット社会で大切なこと
7	選択し、行動する	不安や失敗の経験を通して選択の方法や行動を学ぶこと	高校2年生が部活動を継続・退部するか の悩み	生活の様々な場面で経験する決定と行動	会社員がNPO法人に転職した事例	よりよい選択をし、行動するために大切なこと
8	チームで活動することの意義	働き方やリーダーシップの在り方から、チームで活動すること	文化祭係としてクラスをまとめる 上での葛藤	チームで活動する意義について	会社のプロジェクトチーム	リーダーシップを発揮するうえで大切なこと
9	人生とワーク・ライフ・バランス	人生の選択や共に生活する人との関係を通じたワーク・ライフ・バランス	育児休暇の取得	ワーク・ライフ・バランスを実現する上で大切なこと	会社での残業あり方	ワーク・ライフ・バランスの実現で大切なこと
10	お金の意義について考える	収支の管理や募金、税・社会保障から分かるお金の意味	進学に必要な資金	お金の使い道とその意義について	アルバイトの勧誘	お金に関して大切なこと
11	支え合う社会	人生のリスクや自助・共助・公助の大切さ	自然災害での高校生のボランティア活動	支え合う社会を築くために大切なこと	共働きの家庭での子供の発熱	支え合う社会での大切なこと
12	地域社会を築く	地域社会で活動する人々や地域社会をめぐる現状から地域社会	地域社会の問題解決能力の低下等	地域社会を築くために大切なこと	自治会の役員で経験する苦勞	地域社会とのつながるうえで大切なこと
13	自然と人間の関わり	小笠原の自然や多摩川の変化、環境保全等、自然と人間の関わり	多摩川に生きる生物	自然と共に生きるために大切なこと	外来種の駆除	自然と共に生きる上で大切なこと
14	科学技術の先に…生命倫理を考える	クローン技術等の進む医療技術の発展と課題	マンモスの復活に向けた取組	科学技術といのちについて	平均寿命と医療技術の進歩から生命の質(QOL)について	科学技術の進歩について
15	文化の多様性	食事作法や東京に外国人が集まる現状等の文化の多様性	世界遺産条約等	文化の多様性の意義	留学生のアルバイトを雇用して	文化の多様性について
16	グローバル化が進展する社会に生きる	グローバル化が進展する社会で生きていくために	アメリカ在住の日本人の手記	グローバル化が進展する社会を生きる上で必要なこと	海外での勤務について	グローバル社会で生きる上で大切なこと
17	対立から国際平和を考える	戦争・紛争の原因や欧州連合の成立を通して、対立と合意形成	模擬国連の体験談	対立から国際平和を考える上で大切なこと	紛争による難民受け入れ	自分と国際平和の関わりについて
18	主権者としての自覚	若者の政治参加、選挙権	生徒会役員として定めて活動方針	主権者としての自覚を養うために大切な考え	一票を投じることの重さ	主権者としての自分
最終章	これからの生き方を考える	ブータン王国の国民総幸福量とそのケーススタディの学習を通して、人を幸せにすることの理解を深め、「人を幸せにするプロジェクト」行動の宣言を作成する。				

7 使用教科書の各章と関連する主な教科・科目等の内容

テーマ	学習指導要領上の位置付け		「人間と社会」と関連する内容
	教科・科目等名	内容項目	
1 人間関係を築く	国語・「国語総合」	話すこと・聞くこと	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成、伝え合う力の向上
	外国語・「コミュニケーション英語Ⅰ」	意見交換	積極的にコミュニケーションを図る態度の育成と情報や考えなどを適切に伝える基礎的な能力の育成
2 学ぶことの意義	公民・「現代社会」	私たちの生きる社会	現代社会に対する関心の向上、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さの自覚
	特別活動・「ホームルーム活動」	学業と進路	学ぶことと働くことの意義の理解、社会的自立や職業的自立の涵養
3 働くことの意義	公民・「現代社会」	私たちの生きる社会	現代社会に対する関心の向上、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さの自覚
	特別活動・「ホームルーム活動」	学業と進路	学ぶことと働くことの意義の理解、社会的自立や職業的自立の涵養
4 役割と責任を考える	公民・「現代社会」	私たちの生きる社会	現代社会に対する関心の向上、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚
	保健体育・「体育」	体づくり運動他	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たし、合意形成に貢献しようとする態度の育成
5 マナーと社会のルールについて考える	公民・「倫理」	現代に生きる自己の課題	豊かな自己形成に向け、他者とともに生きる自己の生き方についての考察
	保健体育・「体育」	球技他	フェアなプレイを大切にし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度の育成
6 ネット時代	公民・「倫理」	現代の課題と倫理	情報社会の特質とその進展がもたらす影響についての考察、情報を選択・発信できる能力とモラルの育成
	情報・「社会と情報」	情報社会の課題と情報モラル	望ましい情報社会の在り方と情報技術を適切に活用することの必要性の理解
7 選択し、行動する	家庭・「家庭基礎」	生涯の生活設計	生涯を見通した自己の生活についての考察、主体的な生活設計の能力の育成
	特別活動・「ホームルーム活動」	主体的な進路の選択決定と将来設計	人の生き方の多様性の理解、自らの意志と責任で、進路を選択決定できる能力の育成
8 チームで活動することの意義	公民・「現代社会」	私たちの生きる社会	現代社会に対する関心の向上、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さの自覚
	保健体育・「体育」	球技他	フェアなプレイを大切にし、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度の育成
9 人生とワーク・ライフ・バランス	公民・「政治・経済」	現代社会の諸課題	雇用の安定化と労働条件改善点や仕事と生活の調和の視点から今後の日本の雇用についての探究
	家庭・「家庭基礎」	生涯の生活設計	生涯を見通した自己の生活についての考察、主体的な生活設計の能力の育成
10 お金の意義について考える	公民・「政治・経済」	現代の経済の仕組みと特質	国民経済における家計、企業、政府の役割など、現代経済の特質の把握、租税の意義と役割の理解
	家庭・「家庭基礎」	生活の自立及び消費と環境	自立した生活を営むために必要な経済の計画に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得
11 支え合う社会	公民・「現代社会」	現代の経済社会と経済活動の在り方	人間として生活が保障される社会保障制度の仕組みの意義や役割の理解、現状と課題の考察
	家庭・「家庭基礎」	共生社会と福祉	福祉や社会的支援など、家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性についての認識
12 地域社会を築く	公民・「倫理」	現代の諸課題と倫理・地域社会	地域社会における人間関係の在り方、地域社会における自らの生き方などについての考察
	地理歴史・「地理A」	生活圏の地理的な諸課題と地域調査	生活圏の地理的な諸課題の地域調査などによる把握、解決に向けた取組などについての探究
13 自然と人間の関わり	公民・「現代社会」	共に生きる社会を目指して	持続可能な社会の形成に参加するという観点から、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察
	理科・「生物」	生態と環境	生態系のバランスや生物多様性の重要性についての認識
14 科学技術の先に…生命倫理を考える	公民・「倫理」	現代の諸課題と倫理・生命	生命の誕生、老いや病、生と死の問題等を通して、生きることの意義について考察
	理科・「生物」	生殖と発生	生物の生殖や発生について、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みの理解
15 文化の多様性	公民・「倫理」	現代の諸課題と倫理・文化と宗教	異なる文化や習慣、価値観をもった人々の理解、共に生きていくことの大切さの理解
	地理歴史・「地理A」	世界の生活・文化の多様性	世界の生活・文化の多様性の理解、異文化を理解し尊重することの重要性の考察
16 グローバル化が進展する社会に生きる	公民・「倫理」	現代の諸課題と倫理・文化と宗教	異なる文化や習慣、価値観をもった人々の理解、共に生きていくことの大切さの理解
	地理歴史・「地理A」	世界の生活・文化の多様性	世界の生活・文化の多様性の理解、異文化を理解し尊重することの重要性の考察
17 対立から国際平和を考える	公民・「現代社会」	国際社会の動向と日本の果たすべき役割	国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人としての生き方についての考察
	地理歴史・「世界史B」	地球世界の到来	世界は地球規模で一体化し、二度の大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことへの理解
18 主権者としての自覚	公民・「政治・経済」	現代の政治	民主政治の本質についての把握、政治についての基本的な見方や考え方の育成
	特別活動・「ホームルーム活動」	ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動	ホームルームで組織を編成し、互いの個性を尊重しながら、何らかの役割を分担し、協力し合う態度の育成